

次世代につなげる農業

食品の安全を守るために農業者ができること

■日本の農産物は本当に安全？

「日本で作られた農産物だから安全」と言われることがあります。しかし、本当に安全だといえる裏付けはあるのでしょうか。

食品の安全を脅かす危害要因（ハザードともいう。）はさまざまです。まず思い浮かぶのは、農薬でしょうか。「とにかく農薬を減らせば安全だ」という考えを持っている方がいるかもしれませんが、農薬は農産物の安定的な生産に必要な資材です。このため、農薬に対して正しい知識を持ち、正しく使用することが大切です。

また、農薬の適正な使用のほか、ガラス片や金属片などの異物混入を防ぐ対策も重要です。さらに、重金属、かび毒、病原微生物などによる汚染などにも注意を払わなければなりません。

こうした危害要因は、どの農場にも存在する可能性があります。事実、これらの危害要因への対応不備による事故は国内外問わず発生しています。「国産だから安全」とは必ずしもいえないのです。

これらの危害要因による食品の事故は、意図せずに生じる場合もありますし、その可能性を知っていながら対策を立てなかったために生じる場合もあります。

事故が起きる前に、リスクを把握し、普段から対策を行うことが重要です。



■食品の安全の源流は農業者

農産物は、一般に、農業者から農協や集荷市場などを経由し、その後、店舗に並べられ消費者の手に渡ります。

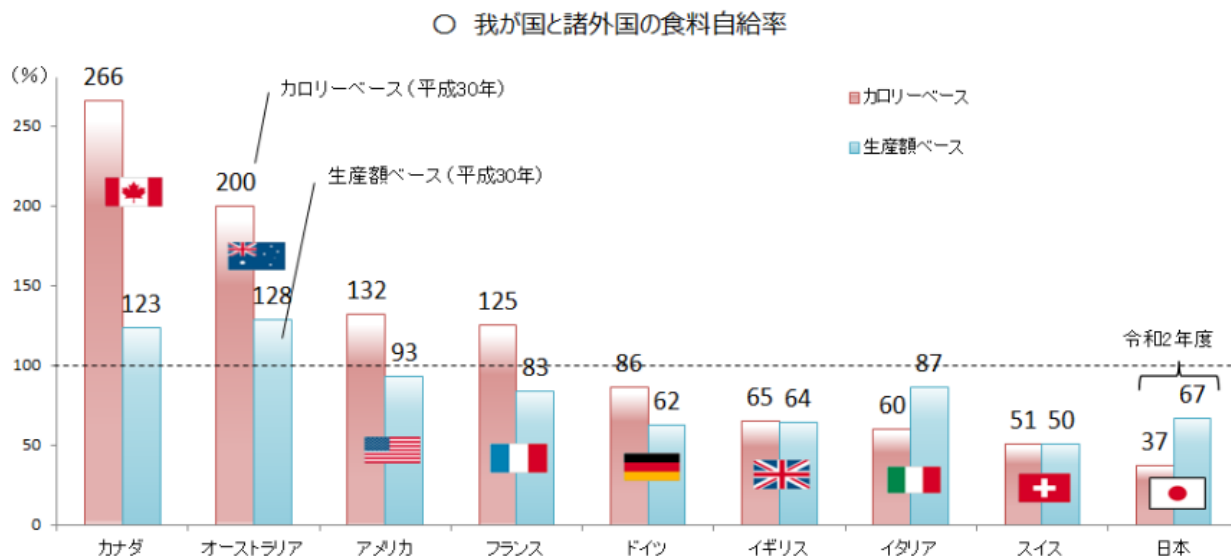
途中で加工されたり手が加えられたりすることはあっても、元の素材は農場で生産されたもの。まずはその大もとである農場において農産物の安全が守られていなければ、どの流通経路をたどっても食品の安全は保証できません。だからこそ、農業者の責任は重大です。



競争力のある農業へ

■農産物が国境を越える時代

近年、流通の国際化や貿易の自由化がますます進んでいます。



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等は含まない）
 注1：数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。
 注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

【出典】農林水産省ホームページ「世界の食料自給率」

https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/013.html

自給率が低い国では農産物の輸入を必要としており、さらにアジアを中心に世界の食市場は拡大しています。つまり、日本では農産物の輸入も必要ですが、同時に、海外への輸出拡大のチャンスでもあるということです。日本の農産物は美味しくて品質も良いと、世界から高い評価を得ています。強みを生かし、求められる様々なニーズに応えていけば、輸出という手段にも可能性が広がるのです。



■日本を取り巻く環境

では、日本の状況はどうでしょうか。

日本の消費者は「人口減」と「高齢化」が進み、2065年には人口 8,808 万人、老年人口割合は 38.4%になると予想されています（国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」より）。日本の農産物の最大の供給先である日本市場は縮小の一途をたどるのです。

さらに、日本でも食のグローバル化が進んでいます。一方で、生産国の環境問題や不十分な人権保護、流通過程の不透明さなど、消費者の不安や不信を抱かせる事案も発生しています。このような中、信頼できる食品へのニーズが世界的に高まっています。

しかし、日本の農産物や加工食品は、他国が考える基準に従って必ずしも生産されているわけではなく、海外への輸出には課題があります。多くの国で通用する品質にするには、輸入側が求める水準の達成とその客観的評価を有していなければなりません。

そこで、世界に通じる品質と客観的評価のための第一歩として GAP が必要となってくるのです。今こそ GAP に取り組み、変化の激しい世界で持続できる農業を構築する時がきています。

コラム

SDGs と GAP

最近よく耳にする^{エスディージーズ}SDGs。持続可能

な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）のことですね。実は、GAPに取り組むことがSDGsにもつながるのです。では、どのような関わっているのでしょうか。

まずは、SDGsについて確認しましょう。SDGsは、2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された「国際目標」です。その内容は、

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すというもので、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

17のゴールには、

- (1) 「貧困や飢餓を終わらせる、差別や不平等の解消」といった社会面の課題
- (2) 「天然資源の効率的利用や働き方の改善」といった持続可能な経済成長を促す経済面の課題
- (3) 「気候変動対策や地球環境の保全」といった環境面の課題

といった3側面からの達成すべき課題が掲げられており、各ゴールにはより具体的な内容としてさまざまなターゲットが設定されています。

SDGsの「S」持続可能性（サステナビリティ）とは、「これからも将来にわたって機能を失わずに続けていくことができる」ということです。SDGsは、その持続可能性の実現のために掲げられ、課題を統合的に解決しながら、持続可能なよりよい未来を築くことを目指しています。

GAPは農業者が守るべき法律や規範等をまとめたものであり、食品安全、労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理の5分野について、「持続可能性を確保する」ために取り組むものです。つまり、SDGsと目指しているところが同じなのです。GAPに取り組むことは、持続可能な世界をつくるSDGsにも貢献できる、と言うことが出来るのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

